

## 第4回 5市市長が語る地域自治体連携シンポジウム

### I 東久留米市の紹介

東久留米市は、都心から北西へ約24km、武蔵野台地のほぼ中央に位置し、北東は埼玉県新座市、西は東村山市、南は西東京・小平の2市、北は野火止用水を隔てて清瀬市に接しています。標高70mから40mの範囲を西から東へなだらかに傾斜し、市内の湧水を水源とする黒目川・落合川が東流し、立野川など数条の小流を集めて都県境で合流しています。

悠久の時を経て、今も変わらず市内を潤す川に沿って、豊かな自然に恵まれたこの地には、原始や古代の遺跡も数多く残されています。



「平成の湧水百選」に選ばれた南沢湧水群

大正4年、武蔵野鉄道（現西武池袋線）が開通し、「東久留米駅」が開設されてから、人々の往来が盛んになり、生産物などの物資の流通が増大しました。昭和31年町制施行の後、ひばりが丘団地、東久留米団地、滝山団地、久留米西団地などの大規模団地が次々に建設され、人口が急増し、昭和45年には日本で最も人口の多い町となり、同年10月に市制を施行しました。

都市圏における住宅都市として発展してきた当市は、現在、新しい時代の将来都市像『“自然 つながり 活力あるまち” 東久留米』を実現するために、「みんなが主役のまちづくり」の基本理念に立って、以下の基本目標を定め、取り組みを進めています。

#### （1）にぎわいと活力あふれるまち

まちににぎわいや活力が生まれるよう、地域と連携して身近な商工業の活性化を支援し、市内の資源を生かした新たな産業などの創出を図っています。農業をリードする新たな担い手の育成を支援するとともに、農産物のPR強化や地産地消を推進し、都市農業の振興を図っています。

#### （2）住みやすさを感じるまち

だれもが将来にわたって安全に、安心して暮らせるよう、災害対策の充実や防犯対策の向上に努め、万が一、災害に遭った場合でも、生活が続けられるための備えを進めています。

#### （3）健康で幸せにすごせるまち

住み慣れた地域で元気で生きがいを持って生活が続けられるよう、民間福祉機関や団体、地域などの協働により、地域福祉の基盤づくりを進めるとともに、社会参加と交流の促進を図っています。

#### （4）子どもの未来と文化をはぐくむまち

だれもが安心して子どもを生み育てることができ、子ども自身ものびのびと成長することができる環境づくりを進めています。

#### （5）地球環境にやさしいまち

本シンポジウムのテーマ「環境と共存する持続可能なまちづくり」について、当市では、次の取り組みを進めています。

## Ⅱ 環境と共存する持続可能なまちづくり

### 1 湧水・清流保全都市 東久留米

#### (1) 水辺環境の保全と活用

本市は、南沢緑地保全地域など、東京の名湧水57選に選ばれた3箇所を含む数多くの湧水があり、これらを水資源とする黒目川、落合川などが流れ、きれいな水と身近に触れあうことができる水辺環境に恵まれたまちです。近年、公共下水道整備の普及にともない水質が回復し、河川で多くの生物が見られるようになりました。特に、落合川は都内でも有数の清流として知られています。平成20年6月には、「落合川と南沢湧水群」が、地域の生活にとけこみ、地域住民などが主体的、持続的に保全活動を行っている清澄な水や水辺環境を評価され、環境省が認定する「平成の名水百選」に、都内で唯一選定されました。

市民アンケートでも「市の良さー水と緑といった環境ーを知っている」とする意見が約8割を占めるなど、都市近郊にありながら「水と緑」に恵まれたまちとして、市民の意識の中に定着しつつあります。

平成23年6月11日には、この街に住む人々が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいく強い意志を表明するため、「湧水・清流保全都市宣言」を行いました。

#### 湧水の妖精「るるめちゃん」の誕生

公募により、市内外から117点の応募があり、市の魅力をPRするマスコットキャラクターが誕生しました。カチューシャは、仲良しのホトケドジョウです。



#### 湧水保全フォーラム全国大会

平成22年12月には、湧水保全フォーラムinひがしくるめを開催し、自由学園内立野川、落合川いこいの水辺や南沢緑地保全地域を、秋篠宮殿下がご視察されました。全国からのお客さまをお迎えする中で、本市の小学生による発表の他、緑豊かな自然環境を多くの皆様にご紹介しました。

#### (2) 湧水に棲む生き物

**魚** 水辺環境には、湧水に棲む魚や水質が比較的良好い川でないと生息できない魚が多くいます。黒目川に見られる主な魚種はオイカワ、モツゴ、タモロコ、ギンブナ、クロメダカ、カワムツ、ナマズ、ドジョウなどです。落合川にすむ主な魚種は、絶滅危惧種とされているホトケドジョウをはじめ、アブラハヤ・タカハヤ・シマドジョウなど、湧水の礫の河床に生息する魚たちです。



絶滅危惧種のホトケドジョウ



「清流の宝石」カワセミ

**鳥** 鳥類も多様で、カモやセキレイの仲間が多く見られます。このうち、親子連れのカルガモやハクセキレイが最もよく見られます。また、サギの仲間（コサギやダイサギ）も良く見られます。「清流の宝石」とも呼ばれるカワセミ、「夜ガラス」とも呼ばれるゴイサギ、最も小さな鷹の仲間のツミなど珍しい鳥を見ることもあります。



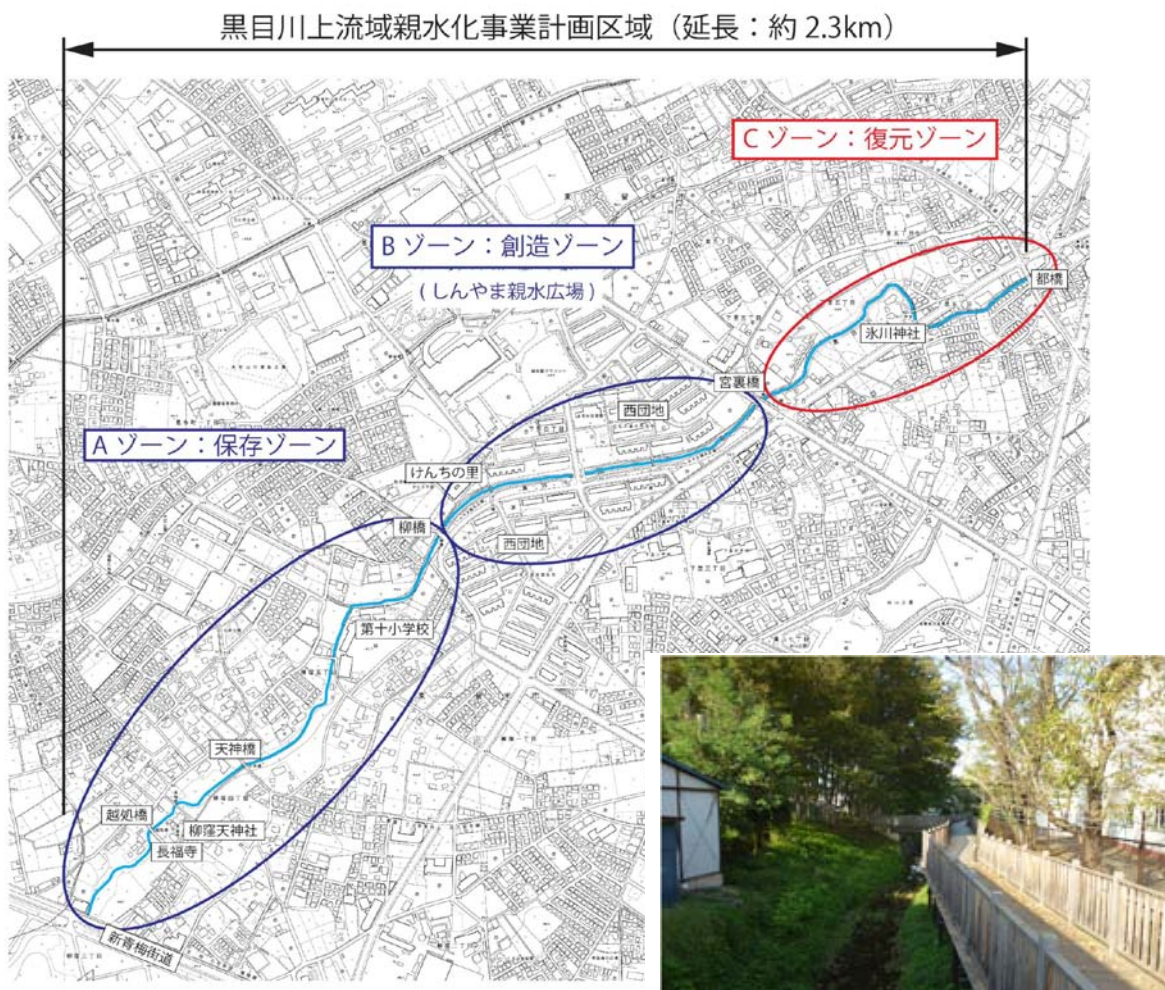
(3) 黒目川上流域親水化事業

黒目川上流域には、緑地、広場や社寺等の良好な環境が点在しており、最上流部は柳窪緑地保全地域を中心とした緑の中に位置しています。しかし、急激な市街地化に伴い良好な環境が失われ、周辺住民や環境団体より清流の復活を求める運動が興されてきました。

市では、この要望に応えるべく雨水を重要な水源と位置づけ、黒目川の雨水整備事業の一環として親水化を伴った清流の復活を図ることとしました。全長 2.3 kmの黒目川上流域を、地域特性から 3つのゾーンに区分し、保全・創造・復元をテーマに、周囲の良好な環境を取り入れ周囲と一体化した整備を行うものです。

本整備計画は、建設省の「水循環・再生下水道モデル事業」に選定され、平成 13 年度着工、27 年度末終了予定となっています。

ゾーン	整備の方向性
A 保全ゾーン	良好な緑地環境を保全しつつ、より市民が親しめるような整備を行う。小学校周辺の樹林地と併せた整備を行う。
B 創造ゾーン	老人ホームや保育園があることから、市民が憩える川を新たに創造する。
C 復元ゾーン	神社や畑があることから、武蔵野の農村風景を復元する。



小学校に沿って整備した「第十小学校みらい橋」

#### (4) 雨水浸透の促進

まちの市街地化が進むなかで、湧水や河川の流量の確保のため、市では、雨水を地面にしみ込ませる雨水浸透を促進しています。既存の住宅に対しては、雨水浸透マスの設置費を助成しており、この制度により平成6年度から24年度までの間に、756件2,365基の施設が設置されました。

また、平成18年に施行された「東久留米市宅地開発等に関する条例」により一定規模以上の開発を行う場合には、雨水浸透施設の設置が規定され、これにより134件の開発行為において3,614件の施設が設置されました。

## 2 緑の保全と活用

### (1) 保全地域

本市は、緑にも恵まれており、森の広場や、市内に点在する雑木林、樹林地は貴重な環境資源となっています。昭和47年に「東久留米市みどりに関する条例」を制定し、市内の緑を守り、緑化を進めることに努めてきました。

東京都が指定する保全地域は都内に48カ所ありますが、その内8カ所が東久留米市内にあります。市は、東京都から保全地域の管理委託を受け、保全地域を良好な状態に維持するため、下草狩り、除草、落ち葉かき、ごみ拾い、支障枝処理、枯木及び野火止用水沈砂池管理等を行っています。また、管理は東久留米自然ふれあいボランティアと協働で行っています。



緑地保全地域での保全作業



南沢緑地保全地域見学ツアー

### (2) 第二次緑の基本計画の策定とその視点

こうした緑を保全するため、東久留米市第二次緑の基本計画を、平成25年4月に策定しました。この計画は、以下のような視点に基づいています。

- 黒目川や落合川と河川沿いの雑木林や公園といった水と緑のネットワークを保全するとともに、年々重要性を増している維持・管理についても計画に盛り込んでいます。
- 市内に17か所の「水と緑の拠点」を設定し、地域の特性に応じた施策を展開します。
- 計画をわかりやすく実効性のある計画とするために、基本方針（5件）－個別目標（20件）－施策（46件）を体系化し、施策の実施主体（市民・事業者・行政）を明示しています。
- 本計画の基本理念「水と緑と人のネットワークづくりをめざして」に対して、水・緑・人についての横断的テーマにより施策をまとめ直し、重点的に実施すべき施策を設定しました。
- 活発に行われてきた市民活動によって、市の水と緑は保全回復されていることを認識し、そのさらなる充実のための施策を盛り込んでいます。
- 都市宣言を行った湧水・清流保全のための施策を重点施策として盛り込んでいます。

## 3 活発な市民活動

### (1) 市民・事業者・行政の協働による取り組み

「水と緑の将来像」の実現に向けて、本市では計画の推進及び進行管理をするために次の組織



を設置し、市民・事業者・行政の協働による取り組みを行っています。

組織名	構成員	役割
環境審議会	学識経験者・市民・事業者・環境関係行政機関の職員 (市長の附属機関)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境の保全等の施策に関する基本的事項、環境に著しい影響を及ぼす恐れのある事項などについて、多面的に調査審議する。</li> <li>・計画の進捗状況の点検・評価・見直し方針などを検討する。</li> </ul>
市民環境会議	市民・市内在勤者 (一般公募)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境基本計画及び緑の基本計画の実現に向けて、市民自らの取り組みを含め、市民、事業者、市の協働の趣旨に基づいた提案をする。</li> <li>・地域での活動の輪の拡大を含め、「水と緑の将来像」の実現に向けて積極的に取り組み、市民、事業者、市の協働体制を作り上げるために努力する。</li> <li>・環境基本計画及び緑の基本計画に関連する必要な情報の共有に努める。</li> </ul>

## (2) 市民による活動

市の財産である水と緑の環境を将来にわたって守るため、本市では、多数の市民団体が活動しています。「湧水保全フォーラム全国大会」においては、20を超える団体が運営に携わり、様々な発表や団体間の交流が行われました。また、緑の基本計画や都市宣言文の起草も市民の手で行われ、週末には実に多くの団体が市内のいたるところで活動しています。

今後も、市民と行政との協働を進め、河川や水辺環境と緑の保全、活用に取り組んでいきます。



落合川で川遊び



落合川清掃



野火止グリーンシップアクション

## 4 資源循環型のまちづくり

### (1) ごみ排出量・1人1日 505グラムを目標に

温暖化の危機や資源の浪費による危機、生態系の危機等、地球規模での環境保全をめぐる課題を解決するため、循環型社会、低炭素社会、自然共生社会の構築を統合的に進め、持続的に成長、発展できる経済社会を形成することが求められています。

中でも循環型社会の形成にあたっては、リデュース（排出抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）によるごみ排出量の抑制と資源を循環させる再資源化の取り組みが重要となっています。ごみの減量を進めるためには市民一人一人の協力が不可欠であることから、平成28年度の1人1日当たりの平均排出量を505gと定め、これを実現するため、様々な取り組みを行っています。

東久留米市では、現在、ごみ有料化を実施しておりませんが、ごみ減量化の取り組みを継続して推進しています。

## (2) ごみ減量化に向けた環境学習・説明会実施

一人でも多くの市民の方に協力していただくため、広報活動に取り組んでおり、平成25年に入りまして、更なる減量化への取り組みを強化し、9月末現在900回を超す説明会等を実施しております。なかでも、市内の保育園や幼稚園、小学校に通う児童（4年生）を対象とした環境学習を実施しており、ゲームやクイズを通してごみの再資源化や分別が分かる教材を作成し、市内全園、全校での実施を目指して取り組んでいるところです。

また、各家庭へのフィードバック効果を高めるため、環境学習の実施に合わせて保護者向けアンケートへの回答を依頼することで、分別の徹底や再資源化の必要性を周知しています。



ごみ減量についての環境学習（小学校）

東久留米市は、常設のごみ収集用具であるグリーンボックスを都内で唯一設置していることから、このグリーンボックスへ無分別ごみや不法投棄ごみが投棄されることが少なくありません。したがってこれらのルール違反に対処するため、グリーンボックス単位での説明会を実施しています。1日1カ所を合言葉にグリーンボックスに貼り紙をし、利用者の方に集まっていただき、不法投棄対策やごみの減量について意見交換をしています。市民の皆さんのごみに関するご意見を伺う貴重な機会となっています。

## (3) 更なる資源循環を目指して

他にも生ごみの減量を進めるため、まずは経験してもらうことを目的として、希望者に市で作成した段ボールコンポストを配布し、身近な素材で生ごみの堆肥化が出来ることを市民の方々に「生」で感じていただく取組を行っています。

段ボールコンポストは、配布するだけでなく、職員がその後の状況を随時確認に行き、場合によってはいったん市で預かり、メンテナンスを行うなど、その後のフォローも欠かさずに行っています。この段ボールコンポストをはじめ、様々な減量化機器を使用してできた堆肥を利用して花等を栽培し、東京国体の山岳競技会場に展示することで、循環型社会形成に向けたメッセージを送ることができました。

東京国体終了後の現在は、ごみ対策課敷地内入口に展示することで、ごみを資源として生かす必要性、重要性を引き続き周知しています。

この他にも、新たに小型家電の実験回収を1月から、落ち葉の実験回収を10月から始め、更なるごみ減量を目指しています。



市で作成した段ボールコンポスト